

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
U R L http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

2012.7.10
No.1052

発行責任者 柳 進 定価 10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

自治労連愛知県本部 第109回定期大会

日時 7月28日(土) 10:00~
場所 名古屋国際会議場



蟹江町職労執行委員会で。若原さん(手前左)と若松書記長(手前右)

保育に格差なんて絶対にイヤ

「新システム」は反対です

蟹江町職労

6月26日、民自公3党は、税と社会保障の「一体改革」関連法案を衆議院本会議で強行採決しました。関連法案には、子ども・子育て新システムの修正法案も含まれており、保育を取りまく状況が急速に動いています。蟹江町職労に保育園の現状についてお話をうかがいました。

人員が不足して現場はいっぱい

蟹江町の保育士である若原真弓(乳児担当)さんは、同じクラスを受け持つ職員が1人辞めてしまったことで、4月から6月まで保育に余裕が持てない状況だっ

たといいます。蟹江町では、4月の時点で乳児4人に対して保育士1人だったのが、それ以降は、乳児5人に対して保育士1人で受け入れています。「1人少ないだけで休憩時間の確保がすごく大変になりました。色々と仕事に工夫をしているが、お昼の食事休憩は30分も取れない。7月に入っ

て、短時間勤務の方が勤務時間を延ばすなど、現場の努力もあり改善できましたが、職場の間隔は、緊張の連続で体も心もいっぱいといった状況でした」と訴えます。

「蟹江町では現在、6つの園がありますが、うち4つの園で人が足りない状況なんです」と語るのは町職労の若松書記長。「職員が不足する中で、子どもにゆとりを持って接することもできていない場合も」と語り、どの子どものびのびと育つことができる保育の必要性を強調します。

お金で「保育」が変わるなんて許せません

若原さんは組合で学んだ「子ども・子育て新システム」の内容が、自主研修に行った時の話の内容と全然違っていたといいます。「研修の時の大学教授の話では、新システムで子どもの健やかな成長にも、親の子育て支援にもメリットがあると思った。でも組合で学んだ内容と正反對だった」と語ります。「子どもがお金によってサービスを受けられなくなるなど、様々なデメリットがあると分かっ

た。良くなると思っていたけど実は悪くなると学び驚いた」といい、職場の仲間にも学んだことを伝えて話し合ったそうです。

また新システム法案では、子どもが必要なだけの時間と質の保育を受けられなくなるのが怖いといいます。「一人の保育士、そして一人の親として、子どもたちには平等でより良い保育を受けて欲しい。受け持ったクラスの子どもの成長を一年間見守るのに、ひとりひとりに格差をつけて保育するなんてできるわけがない。そんなのは絶対に嫌なんです」と悲痛な叫びを訴え、あらためて新システム法案NO.の声を挙げました。

一方的な削減は許さない

退職手当削減反対行動



悪政を止めようと訴え

「退職手当は賃金の後払い、老後の貴重な生活資金を一方的に、しかも大幅に引き下げることは絶対に許せない」。7月4日、公務員の退職手当削減反対、総務省前座り込み行動が全労連・公務労組連絡会主催でとりくまれました。この日は梅雨晴れの猛暑のなか、300名を超える組合員が参加しました。

自治労連の野村委員長が「400万円以上の大幅削減の根拠をなにひとつ示せない政府の姿勢は、削減ありきの不当なもの。悪政にストップをかける運動と一体でがんばろう」と主催者あいさつ。情勢報告に立った公務労組連の黒田事務局長は「野

田政権は、消費税増税法の参議院での可決・成立をねらい、その露払いとして公務員の退職手当削減法案の政府決定を7月上旬にもねらっている」と報告し、「過去にもない、大幅な削減に反対する運動を職場から広げよう」と訴えました。座り込み行動では、参加者によるリレートークが行われ、「大幅削減で老後の生活が成り立たなくなる」「これでは、若い職員も安心して働き続けることができない」など、一方的な削減に怒りの声が出されました。座り込みと並行して、総務省への個人請願行動がとりくまれ、退職手当削減に反対する思いをとどめました。

保育修正法案は骨抜き

愛知公務共闘「社会保障」学習会

6月27日、労働会館で愛知公務共闘は、藤原佳子・福保労働地本書記長を講師に迎え、『社会保障と税の一体改革』の問題、「子ども・子育て新システム修正法案の修正問題」について学ぼうと行われました。

子ども・子育て新システムを中心に」と題した学習会を行いました。学習会は、26日に衆議院を通過した子ども・子育て新システム修正法案の修正問題について学ぼうと行われました。

その上で、子ども・子育て新システム修正法案の問題点を指摘します。修正法案の問題点悪いことはすべて残っている

藤原さんはまず、「一体改革法案」の修正協議で、民自公3党が突然持ち出した社会保障制度改革基本法案について、「国民に周知せず、国会でろくに議論もされていない。議会制民主主義の破綻です」と批判

「総合子ども園が撤回されて、修正法案によって問題点が解消されたかのように思われているが違つ」と語る藤原さん。「公立保育所は市町村が100%財源を負担し、国は1円も負担しない」として、保育料収

入だけで自治体が公立保育所を運営しなければならぬ」と指摘します。

また、依然として、保護者が保育所を選択して契約を結ぶ「直接契約」は残っているとして、「保育の実施義務が『保護者の自己責任』の言葉で片付けられてしまつ。これでは事実上の骨抜き修正」。新システムの問題点は何も解決されていない、と批判しました。

参加者からは、「こまめでひどいとは思わなかった」「これでは以前の法案と何も変わらない」との発言。あらためて、法案を廃案に追い込むための声を続けよう、確認し合いました。

国民の怒りの声を聞け

いのちとくらしを守れ、怒りの6・23国民大集会

6月23日、東京明治公園 ひとつ強め、悪政阻止に
で、「いのちとくらしを守れ」怒りの6・23国民大集会が行われました。集会には全国から24000人、自治労連愛知県本部からは90人が参加。怒りを運動の力に変え、たたかいを



「悪政は許さない」と愛知の仲間から怒りの声

法案の衆院本会議採決を強行しました。採決の強行は国民の声を無視したもので断じて許されません。

将来が不安で、たまらない
細田由起子・新城市職労
不景気による給与削減・リストラ・原発事故・復興

支援など様々な不安や心配を抱える中で、増税法案可決！一体国は私たちにどれだけの事を要求するのか？自分も子供達も将来の生活を考えると不安でたまりません。

消費税増税には断固反対
松井陽佑・名古屋市職労
消費を冷や込ませ、景気がさらに悪化する消費税の増税には断固反対です。

「税と社会保障の一体改革」ではなく、大企業がため込んだ内部留保を還元させる仕組みをつくることです。そつすることで、社会保障や家計にお金が回り、

消費活動がすすみ、景気は上向くと思います。

みんなの力で悪政阻止
大野仁美・半田市職

6月23日の国民大集会に参加してきました。全国から多くのなかまが参加し、明治公園が人で埋めつくされました。一人の力では何もできないけど、みんなの力が一緒になるとすばらしいと感じました。

賃金面で大きな改善

春の自治体キャラバン 総括

住民のくらしを守り、公共サービスの充実、格差の是正、働くルールの確立、平和な社会の実現をめざすと、5月にとりくまれた「春の自治体キャラバン」



知立市と懇談するキャラバン隊



渥美支所前でピラ配り

組合の存在をアピール

東三地区協ピラ配布行動

自治労連東三河地区協議会は、6月27日、29日、田原市役所と渥美支所、新城市役所で組合をアピールするピラ配布を行いました。ピラは、人事院勧告に基づかない「違法な公務員賃金引き下げ反対」、高齢期雇用と定年延長問題に対して

「確実な雇用と年金の接続を」など訴えるものです。田原市役所渥美支所前でされた行動では、多くの職員がピラを受け取り、目を通しながら職場へ向かっていきました。

母の日に子どもから似顔絵のプレゼント。昨年よりレベルアップして嬉しかったです。
(安藤亜樹・西尾市職)
今年も節電の季節。社会的に節電ムードが高まっているので協力しなければ。
(柴田純一・瀬戸市職労)
1日何時間も炎天下で検針業務をがんばっています。職場環境を良くするため、組合活動もがんばっています。

(天池園子・名水労)

4月から娘が保育園に入園。毎日、涙で保育園に通う姿が涙を誘います。
(竹安誠・岩倉市職)

ゴミの収集業務時に、市民の方から、「いつもありがとうございます。ありがとうございます」と言われたのは初めてで、仕事にやりがいを感じました。
(松本幸司・豊橋市職労)

最高裁へ向け全力でたたかう

「倉田康弘さんの過労死認定を求めると」 第9回総会



康弘さんの妻で原告の倉田利奈さん

「刈谷市職員、倉田康弘さんの過労死認定を求める会」の第9回総会が6月24日、刈谷市総合文化センターで開催されました。倉田康弘さんは、刈谷市立美術館に勤務していた1998年12月、過重な公務を強いられる中で死亡。妻で原告の倉田利奈さんは、地方公

務員災害補償基金の公務外認定の取り消しを求め、現在、最高裁へ上告受理の申し立てを行っています。

総会では、伊藤自治労連愛知県本部委員長が、「最高裁のたたかいに全力を挙げる」と連帯のあいさつ。最高裁での勝利に向け、40000筆の署名を集め、最高裁へ要請行動を行うお話し合われました。

単組定期大会 役員紹介

- 名水労(6月29日)
- 執行委員長 渡辺 泰
 - 副委員長 近藤 睦美
 - 書記長 加藤 嘉久
 - 書記次長 近藤 夏樹

「言いたい劇場」

小菅りや子



セット共済 安くて安心
自治労連 掛金 1790円/月 → 病气入院 5000円/1日



康弘さんの妻で原告の倉田利奈さん

「刈谷市職員、倉田康弘さんの過労死認定を求める会」の第9回総会が6月24日、刈谷市総合文化センターで開催されました。倉田康弘さんは、刈谷市立美術館に勤務していた1998年12月、過重な公務を強いられる中で死亡。妻で原告の倉田利奈さんは、地方公

務員災害補償基金の公務外認定の取り消しを求め、現在、最高裁へ上告受理の申し立てを行っています。

総会では、伊藤自治労連愛知県本部委員長が、「最高裁のたたかいに全力を挙げる」と連帯のあいさつ。最高裁での勝利に向け、40000筆の署名を集め、最高裁へ要請行動を行うお話し合われました。

単組定期大会 役員紹介

- 名水労(6月29日)
- 執行委員長 渡辺 泰
 - 副委員長 近藤 睦美
 - 書記長 加藤 嘉久
 - 書記次長 近藤 夏樹